

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
大原自動車工科 専門学校大分校		平成30年9月25日		平田 浩司		〒870-0839 大分県大分市金池南1-2-24 (電話) 097-574-6568																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人大原学園		昭和54年4月1日		中川 和久		〒101-0065 東京都千代田区西神田1-2-10 (電話) 03-3292-6266																	
分野	認定課程名		認定学科名		専門士	高度専門士																	
工業	工業専門課程		二級自動車整備学科		令和2年文部科学省 認定	—																	
学科の目的 教育基本法、学校教育法及び私立学校法に準拠し、モータリゼーション化等の社会において、自動車整備の分野を担うために必要な基本的原理を理解し、専門的能力と実践的技術を身につけた人間性豊かな社会人を育成することを目的とする。																							
認定年月日 —																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1,818(65単位)	716.4(38単位)	0(0単位)	1,218.6(32単位)	0(0単位)	0(0単位)																
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
80人		48人	10人	3人	1人	4人																	
学期制度		■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ・学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。授業科目の成績は5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準により GP(Grade-Point)を与える。																	
長期休み		■学年始:4月1日 ■夏季:7月下旬～8月下旬までの約4週間 ■冬季:12月下旬～1月上旬までの約2週間 ■春季:3月下旬～4月上旬までの約2週間 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件		■進級の認定基準 進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修および単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。 ■卒業の認定基準 修了・卒業の認定は、下記に定める授業時間(単位)の履修及び学則第8条に定める授業科目の成績評価に基づき卒業審査により行い、認定者には校長が卒業証書を授与する。 (1)二級自動車整備学科 1,818時間(65単位)																	
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 無断欠席の場合、電話連絡 本人、保護者、担任による三者面談等		課外活動		■課外活動の種類 フレッシュマン研修 スポーツフェスティバル ボランティア活動 等 ■サークル活動: 有																	
就職等の状況※2		■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 大分トヨタ自動車株式会社、大分トヨペット株式会社、トヨタカローラ大分株式会社、大分日産自動車株式会社、日産プリンス大分販売株式会社、株式会社ホンダ四輪販売福岡・大分等 ■就職指導内容 就職ガイダンス、自己分析面談、個別進路面談、求人紹介、合同企業説明会、個別面接練習、入社前準備プログラム 等 ■卒業生数 24 人 ■就職希望者数 23 人 ■就職者数 23 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 95.8 % ■その他 ・進学者数: 1人 (令和 2 年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等)		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>24人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>24人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>中古自動車査定士</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>16人</td> </tr> </tbody> </table> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	二級ガソリン自動車整備士	②	24人	22人	二級ジーゼル自動車整備士	②	24人	23人	中古自動車査定士	③	18人	16人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
二級ガソリン自動車整備士	②	24人	22人																				
二級ジーゼル自動車整備士	②	24人	23人																				
中古自動車査定士	③	18人	16人																				

中途退学 の現状	<p>■中途退学者 4名 ■中退率 8%</p> <p>令和2年4月1日時点において、在学者52名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者48名(令和3年3月31日卒業者をを含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更 1名 家庭の事情 3名</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任による定期面談(本人および保護者) 担任以外のチーフ・管理職による面談、進路相談(本人および保護者)</p>
経済的支援 制度	<p>①試験による特別奨学生制度:がんばる人を支援するために「試験による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原独自の特別奨学生試験の結果に応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。</p> <p>②資格・クラブ活動による特別奨学生制度:がんばる人を支援するために「資格・クラブ活動による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原学園入学までに取得した資格やクラブ活動実績を一定のランクに認定し、そのランクに応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。</p> <p>③留学生を対象とした学費減免制度:高い目的意識を持って大原学園で学ぼうとする留学生を応援する制度です。一定の条件を満たした方は推薦制度を利用して学費の減免が受けられます。</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象</p>
第三者による 学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p>
当該学科の ホームページ URL	<p>URL: https://oita.o-hara.ac/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先である自動車関連企業等と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②自動車整備に関する知識・技術の習得、自動車新技術の学習等の教育内容について、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

- ①位置づけについて
教務課の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。
- ②意思決定の過程について
(ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。
(イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。
(ウ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、副校長、教務部次長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
渡部 道信	一般社団法人大分県自動車整備振興会 教育指導課 課長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	①
住原 裕志	大分トヨタ自動車株式会社 営業本部 サービス部 技術トレーナー 係長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
四井 毅	大分日産自動車株式会社 営業支援部 サービスグループ 課長代理	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
平田 浩司	大原自動車工科専門学校大分校 校長	-	-
青島 徹	大原自動車工科専門学校大分校 副校長	-	-
木津 郁	大原自動車工科専門学校大分校 教務部 次長	-	-
高野 克浩	大原自動車工科専門学校大分校 教務部 教務2課 課長補佐	-	-
山本 正樹	大原自動車工科専門学校大分校 教務部 教務2課	-	-
中村 亘貴	大原自動車工科専門学校大分校 教務部 教務2課	-	-

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年 8月 6日 16:00～17:00

第2回 令和2年12月 3日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ①第1回委員会において「実務に即した知識・技術の習得」「自動車整備士として求められる人物像」について意見をいただいた。特に課題解決能力向上について意見をいただき、教育課程に反映した。
- ②第2回委員会において「危険予知トレーニング(KYT)導入」について意見をいただき、令和3年度より「基本作業実習Ⅰ」のカリキュラムに「危険予知トレーニング(KYT)」を追加した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①企業等と打ち合わせを実施し、教育課程を編成する。
- ②企業等による実習授業を実施し、学生のより専門的な技術・知識の習得に加え、社会人としての意識改革を実現する。
- ③企業等へ知識・技術の習得状況について、実践で活かせるレベルか否かの評価を仰ぎ、学習成果の評価へ反映させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

職業実践の趣旨を企業等に説明し、ご理解頂いたうえで打合せを行い、下記の3点について授業内容の質向上のために連携している。

- ①企業担当者と打ち合わせを行い、授業日程、連携内容、到達目標、実施方法について調整する。
- ②企業連携実習授業を実施する。
- ③実習授業終了時の総合評価を実施し、学習成果の評価へ反映させる。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
基本作業実習Ⅰ	自動車の基本的な整備技術を学ぶ	株式会社 スズキ自販大分

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。「大原学園教職員研修規定」の目的に定めるとおり、教職員が専門分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるために、教員研修の環境を整える。研修については、校内・校外において計画的に行っており、教育責任者の指示又は本人の意思により、公平に受講する機会を与えている。なお、校内、校外において学園が企画する研修は下記のとおり。

- ①企業・団体・学術機関等の講師を招いた知識・指導スキル研修(校内研修)
- ②教育本部・講座本部が主催する知識技能、指導力の向上のための研修(校内研修)
- ③学内に設置する附帯教育講座を利用しての自己啓発(校内研修)
- ④企業、団体等が開催している研修・講義等への参加(校外研修)

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:電気自動車についての教員研修
(連携企業等:大分日産自動車株式会社)

期 間:令和3年2月15日(月)

対 象:二級自動車整備学科担当教員

内 容:以下の内容で自動車の新技術について構造、整備方法を学び、自動車整備の技術、知識についての向上を図った。

- ・電気自動車リーフの構造、整備方法
- ・先進安全自動車についての技術講習

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:指導力の修得・向上のための教員研修
(連携企業等:別府大学 キャリア支援センター 副センター長 佐藤 敬子 様)

期 間:令和2年12月21日(月)

対 象:二級自動車整備学科担当教員

内 容:学生に対する指導力の修得・向上を目的として、学生とのコミュニケーション技法や人間関係形成の重要性を学ぶ。研修を通じて、学生指導に関する共通の認識を深めていくことができた。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 空気充てん取扱業務の専門知識向上のための教員研修
(連携企業等: 日本グッドイヤー株式会社)

期 間: 令和3年7月27日(水)

対 象: 二級自動車整備学科担当教員

内 容: タイヤの空気充てんに係る特別教育を通じて、タイヤ交換作業における、高圧での空気充てんについての知識、技術の向上を図る。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 指導力の修得・向上のための教員研修
(連携企業等: 元別府大学 キャリア支援センター 副センター長 佐藤 敬子 様)

期 間: 令和3年12月21日(火)

対 象: 二級自動車整備学科担当教員

内 容: コーチングを活用した指導力向上と保護者対応力の向上を図ることを目的として実施する。コーチングの活用方法や保護者対応時の留意点を学び、ロールプレイングで実践する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	① 理念・目的・育成人物像は定められているか。 ② 学校の特色はなにか。 ③ 学校の将来構想を抱いているか。
(2) 学校運営	① 運営方針は定められているか。 ② 事業計画は定められているか。 ③ 運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④ 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤ 意思決定システムは確立されているか。 ⑥ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3) 教育活動	① 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ② 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③ カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④ 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤ キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥ 授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦ 育成目標に向け授業を行う事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧ 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨ 資格取得の指導体制はあるか。
(4) 学修成果	① 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ② 資格取得率の向上が図られているか。 ③ 退学率の低減が図られているか。 ④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。

(5) 学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6) 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行われているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	-

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

防災・安全管理について、緊急時に頭ではなく体が動く準備を日々伝えて欲しいという意見をいただいた。そのため、大分市が実施しているシェイクアウト訓練の実施、並びに災害に関する資料配布を行い、学校周辺や学生の自宅周辺のハザードマップの検索情報、自助・互助・共助・公助の仕組みなどの勉強会を合わせて実施した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
渡部 道信	一般社団法人大分県自動車整備振興会 教育指導課 課長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
住原 裕志	大分トヨタ自動車株式会社 営業本部 サービス部 技術トレーナー 係長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
四井 毅	大分日産自動車株式会社 営業支援部 サービスグループ 課長代理	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
姫野 夏希	株式会社スズキ自販大分	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	卒業生

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://oita.o-hara.ac/>

公表時期: 令和3年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、関係業界、地域住民、保護者、中学校・高等学校関係者、所轄庁など関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携・協力の推進に資する観点から、積極的な情報提供に取り組む。
 ②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
 ③情報の公表を通じて、学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①概要 ②教育方針 ③沿革
(2)各学科等の教育	①入学定員 ②受入方針 ③カリキュラム ④進級、卒業要件等 ⑤専門士の称号付与 ⑥目標とする国家試験、検定試験等 ⑦主たる国家試験、検定試験等の合格実績 ⑧卒業生の進路
(3)教職員	①教職員数 ②教職員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	①キャリア教育 ②実習・実技等 ③就職支援等
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②課外活動
(6)学生の生活支援	①完全担任制 ②就職教育
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等
(8)学校の財務	学校の財務状況公開
(9)学校評価	学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	—
(11)その他	—

(3)情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://oita.o-hara.ac/>

授業科目等の概要

(工業専門課程二級自動車整備学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ガソリン・エンジン構造学Ⅰ	ガソリンエンジンの構造を学ぶ	1前	16.2	1	○			○		○		
2	○			ガソリン・エンジン構造学Ⅱ	ガソリンエンジンの構造を学ぶ	1後	16.2	1	○			○		○		
3	○			ジーゼルエンジン構造学Ⅰ	ジーゼルエンジンの構造を学ぶ	1後	16.2	1	○			○		○		
4	○			シャシ構造学AⅠ	シャシの構造を学ぶ	1前	16.2	1	○			○		○		
5	○			シャシ構造学AⅡ	シャシの構造を学ぶ	1後	16.2	1	○			○		○		
6	○			シャシ構造学BⅠ	シャシの構造を学ぶ	1前	16.2	1	○			○		○		
7	○			シャシ構造学BⅡ	シャシの構造を学ぶ	1後	16.2	1	○			○		○		
8	○			自動車工学Ⅰ	自動車に関する計算を学ぶ	1後	16.2	1	○			○		○		
9	○			自動車工学Ⅱ	自動車に関する計算を学ぶ	2前	21.6	1	○			○		○		
10	○			電気・電子理論	電気・電子の理論を学ぶ	1前	16.2	1	○			○		○		
11	○			電装品構造学Ⅰ	電装品の構造を学ぶ	1前	16.2	1	○			○		○		
12	○			電装品構造学Ⅱ	電装品の構造を学ぶ	1後	16.2	1	○			○		○		

13	○		整備作業機器	整備作業機器の構造や取扱いを学ぶ	1 前	16.2	1	○			○	○		
14	○		工業計測	計測機器の構造や取扱いを学ぶ	1 前	16.2	1	○			○	○		
15	○		図面 I	図面の読み方及び書き方・各記号や線の理解	1 前	16.2	1	○			○	○		
16	○		ガソリンエンジン 整備法	ガソリンエンジンに関する知識を身に着ける	2 前	25.2	1	○			○	○		
17	○		ディーゼルエンジン 整備法	ディーゼルエンジンに関する知識を身に着ける	2 前	25.2	1	○			○	○		
18	○		シャシ整備法 A	車体整備に関する知識を身に着ける	2 前	25.2	1	○			○	○		
19	○		シャシ整備法 B	車体整備に関する知識を身に着ける	2 前	25.2	1	○			○	○		
20	○		電装品整備法	自動車電気装置に関する知識を身に着ける	2 前	25.2	1	○			○	○		
21	○		故障診断学ガソリン エンジン	ガソリンエンジンに関する整備士試験の演習問題を解く	2 後	32.4	2	○			○	○		
22	○		故障診断学ディーゼル エンジン	ディーゼルエンジンに関する整備士試験の演習問題を解く	2 後	32.4	2	○			○	○		
23	○		故障診断学シャシ A	シャシに関する整備士試験の演習問題を解く	2 後	34.2	2	○			○	○		
24	○		故障診断学シャシ B	シャシに関する整備士試験の演習問題を解く	2 後	34.2	2	○			○	○		
25	○		故障診断学電装品	自動車電気装置に関する整備士試験の演習問題を解く	2 後	32.4	2	○			○	○		
26	○		特殊機構	自動車に用いられる特殊装置を学ぶ	2 前	16.2	1	○			○	○		
27	○		材料・燃料・油脂	自動車の材料と燃料、油脂に関する内容を学ぶ	2 前	16.2	1	○			○	○		
28	○		自動車検査	自動車に関する法律を学ぶ	2 前	21.6	1	○			○	○		

29	○		自動車関係法令	自動車に関する法律を学ぶ	2 後	21.6	1	○			○	○		
30	○		工作作業実習	工作道具、工具を使用し金属加工を行う	1 前	34.2	1				○	○	○	
31	○		基本作業実習Ⅰ	自動車の基本的な整備技術を学ぶ	1 前	32.4	1				○	○	○	○
32	○		基本作業実習Ⅱ	テスターの組み立てと電気の測定方法を学ぶ	1 前	34.2	1				○	○	○	
33	○		基礎自動車整備実習AⅠ	自動車のリフト作業とブレーキ関係を学ぶ	1 前	86.4	2				○	○	○	
34	○		基礎自動車整備実習AⅡ	自動車のエンジンに関する整備と測定を学ぶ	1 前	86.4	2				○	○	○	
35	○		基礎自動車整備実習AⅢ	自動車電気装置の整備について学ぶ	1 前	86.4	2				○	○	○	
36	○		基礎自動車整備実習BⅠ	エンジンの分解組み付けを行いエンジンに関する整備方法を学ぶ	1 後	82.8	2				○	○	○	
37	○		基礎自動車整備実習BⅡ	自動車の法令点検について学ぶ	1 後	82.8	2				○	○	○	
38	○		基礎自動車整備実習BⅢ	自動車のシャシ関係部品の分解、組付けを行う	1 後	82.8	2				○	○	○	
39	○		基礎自動車整備実習BⅣ	自動車のエンジンに関する整備を学ぶ	1 後	39.6	1				○	○	○	
40	○		基礎自動車整備実習BⅤ	自動車の電気回路について学ぶ	1 後	39.6	1				○	○	○	
41	○		基礎自動車整備実習BⅥ	エンジンの制御を学ぶ	1 後	32.4	1				○	○	○	
42	○		応用自動車整備実習AⅠ	2輪整備とトランスミッションについて学ぶ	2 前	77.4	2				○	○	○	
43	○		応用自動車整備実習AⅡ	自動車の電気装置について学ぶ	2 前	77.4	2				○	○	○	
44	○		応用自動車整備実習BⅠ	車体からエンジン、トランスミッション、A Cの脱着作業を行う	2 後	68.4	2				○	○	○	

45	○		応用自動車整備実習BⅡ	自動車の電子制御を学ぶ	2後	70.2	2			○	○	○		
46	○		応用自動車整備実習BⅢ	ジーゼルエンジンについて学ぶ	2後	70.2	2			○	○	○		
47	○		自動車検査実習	自動車の法令点検を学ぶ	2前	75.6	2			○	○	○		
48	○		総合自動車整備実習	自動車整備士の総合的な技術を学ぶ	2後	43.2	1			○	○	○		
49	○		自動車キャリアデザイン	就職に対する準備を行う	1前	52.2	1	○			○	○		
50	○		自動車パソコン実習	表計算ソフトの使用方法を学ぶ	2後	16.2	1			○	○	○		
51	○		消防法	危険物取り扱いについて学習する	2前	16.2	1	○			○	○		
52	○		自動車ビジネスマナーⅠ	ビジネスマナーについて学習する	2前	16.2	1	○			○	○		
53	○		自動車ビジネスマナーⅡ	ビジネスマナーについて学習する	2後	16.2	1	○			○	○		
合計					53科目			1935単位時間(70単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(試験) 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。 (学業成績) 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀・優・良・可を取得した学生には所定の単位を与える。 (卒業) 修了・卒業の認定は、下記に定める授業時間(単位)の履修及び所定の授業科目の成績評価に基づき卒業審査により行い、認定者には校長が卒業証書を授与する。 二級自動車整備学科整備学科 1,818時間(65単位)	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	27週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。